

〔正賞 社会文化部門〕

1. 氏名 もうり・かずえ
毛利 一枝 氏
2. 年齢 81歳
3. 肩書 装丁家
4. 住所 福岡市

※年齢は2025年11月3日時点



【受賞理由】

40年以上にわたって、1400冊に及ぶ書籍の装丁を手掛けてきた。出版社が東京に集中する中、福岡を拠点としながら日本を代表する装丁家としての評価を確立するとともに、幅広い人脈を生かして九州の作家と地元出版社をつないできた。地域の出版文化の発信に努めてきた功績は特筆される。

書籍のジャンルは、小説、ノンフィクション、詩集、戯曲、学術書等々と幅広く、いずれも内容を熟読した上で最適なブックデザインを考案している。アイデアの豊かさに加え、落ち着きと品位がありながら冒険心や実験精神も忘れない作品群は、多彩な文筆家から絶大な信頼を受けている。自身が写真を担当し、小説家の村田喜代子氏とコラボレーションした新聞連載「この世ランド」シリーズや、詩人の北川透氏との新作「プリズンブレイク 脱獄」（2025年）など、新たな試みにも果敢に取り組んでいる。

【主な経歴】

1964年 三宅デザイン事務所入所
1965年 西日本日宣美展優秀賞
1968年 独立、グラフィックデザイン室設立
1971年 イタリア居住（～74年）
1983年 フリーで装丁を専門に始める
2006年 福岡市民文化活動功労賞

主な装丁作品に「阿部謹也著作集」（筑摩書房）、「私の日本地図・全15巻」宮本常一（未来社）、「逝きし世の面影」渡辺京二（葦書房）、「五里霧」大西巨人（講談社）、「ベシヤワールにて」中村哲（石風社）、「屋根屋」村田喜代子（講談社）、「花いちもんめ」石牟礼道子（弦書房）、「みんな忘れた」野見山暁治（平凡社）、「溶ける、目覚まし時計」北川透（思潮社）、「ターミナル」平田俊子（思潮社）、「ウォーターリリー」川野里子（短歌研究社）、「アヴェルノ」ルイーズ・グリュック 江田孝臣・訳（春風社）、「時間の神の蝸牛」渡辺松男（書肆侃侃房）、他多数。

1995年頃より写真を撮り始め、「現代詩手帖」（思潮社）2012～16年、写真での表紙装丁。2010年より、村田喜代子氏と西日本新聞で「この世ランドの眺め」（現在は「ぶらぶら歩いてこの世ランド」）連載。共著に「読むことの手 東大駒場連続講義」（講談社選書メチエ293）、「プリズンブレイク 脱獄」（書肆侃侃房）。